

勸善懲惡錦新画聞

第十三號

人の危難をこそ救ふ  
則、測隱の心せり大坂  
第四大區十二小區曾  
根寺新地二丁目  
兼右の古塚直助  
の女隠居と曾根  
崎おまのしご當五月  
廿日午前十一時多  
ろん居他出留主  
をうへい二人の賊  
忍み入りすでお諸品  
をうへい去らんをせし  
か此とき隣家の川内伊兵工  
の妻おとまり此物音をきつ  
てうち驚き抱きし兒を其ま捨置  
て急かたりと出てこの隠居の本家  
から鮮屋古塚へ知らせん走  
ふ履ものもちりし木履を途中  
おぬぎ捨く跣足をりつや  
告りし鮮やの若者四人手  
もの引提て隠居家へ送り  
二人の賊をとり巡邏の屯所  
物いら盗まねぞし事府  
女正妻おとまり隣家の危難  
をを厭ひ本家へ知らせる事  
つくりし人依て御上おま  
しを賞せしとて金五十錢  
の男もへ金一円下されし

時習舎主人述  
世木うい龍



新聞局

藤井時習舎



80  
75  
70  
65  
60